

会 議 録

会議の名称	平成28年度 第1回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	平成28年7月12日(火) 10時00分 ~ 12時00分
開催場所	市役所高層棟6階 604会議室
出席者の氏名	中島 修(委員長)、神武 恭子(副委員長)、岡村 淳子、岡村 英雄、 小田島 明、小原 共子、津本昌子、鬼澤 一壽、小室 民也、 坂口 葉子、柴井 せん、鈴木 四季、高柳 進
欠席者の氏名	広瀬正幸、小野 慎二
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 計画の進捗状況について (2) 今後の進め方について (3) その他
会議資料	【配布資料】 資料1：関連事業(計画書で指標としている取り組み) 資料2：27年度の実績が下がっている取り組み 資料3：重点施策の状況について 資料4：今後の進め方について(案) 〔当日配布〕 平成28年7月1日現在 委員名簿 「なつやすみ一緒に食べよ」 チラシ
担当部課名	福祉部 福祉総務課 地域福祉推進室 電話04(2998)9113 福祉部長 植村 里美 福祉部次長 北田 裕司 福祉総務課長 佐々木 厚 福祉総務課主幹 斎藤 伸壽 福祉総務課副主幹 佐藤 尊之 福祉総務課主査 遠藤 康代 福祉総務課主任 鹿島 裕太

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
齋藤主幹	<p>委嘱状交付</p> <p>P T A 連合会選出の委員の変更があったため、開会前に植村部長より委嘱状の交付を行った。</p>
齋藤主幹	<p>1 . 開 会</p> <p>開会を宣言した。</p>
中島委員長	<p>2 . あいさつ</p> <p>新しい年度となったが、様々な（国の）施策をみると、地域福祉に関連したものが増えてきている。高齢者・介護・生活困窮・障害者・子供の問題などしかり。熊本地震もあり、福祉避難所にもクローズアップされた。改めて本市の地域福祉計画の進行管理をしっかりと確認していかなければならないので、よろしく願いしたい。</p> <p>～資料の確認～</p> <p>3 . 議 題</p>
佐藤副主幹	<p>1 . 計画の指標としている取り組みの進捗状況について</p> <p>～事務局より、資料1・資料2に基づいて説明を行った～</p>
中島委員長	<p>只今のご説明に関して、何かご意見やご質問はあるか。</p>
鬼澤委員	<p>資料1の26年度の数字が3、13、14等の指標数字が丸まっているが、これは実績値なのか。こんなにぴったりの数字にならないと思う</p>
中島委員長	<p>26年度の数字については、計画策定の現況値ということで記載している。26年度中の計画の策定段階での数字であることから、見込みの数字である。あくまでも正確な実施の実績値ではない。指標のスタート時における現況値として作成したもの。</p>
鬼澤委員	<p>では、正確な数字はわからないのか。出ていないのか。</p>
中島委員長	<p>数字の見方について確認する。昨年の2月の会議でも説明があったが、26年度の実績というのは、計画の策定時に出している。年度末に計画を策定するのではなく年度途中の作業であり、スタート時の（見込みも含んだ）数値。今の質問による正確な実績値ではないが、表記の仕方が少し違うかもしれないが、スタート時の数字である。スタート時から見て、27年度の進捗と29年度目標値が記載されている。確かに実績値だと、このようにきれいな数字にはならないかもしれないが。</p>

小室委員	<p>進捗管理の件。評価の達成・未達成とあるが、事業の内容によっては毎年の積み上げで達成するものと、年度毎で今年は達成未達成というものもあると思う。今年度は目標がないので29年度の目標に対し達成かどうか言っているのだと思うが、27年度に達成しても28年度に落ちるかもしれないものもあり、最終的には実績の積み上げにより、29年度の時点でようやく評価できるものもあると思う。今、目標値に対して達成・未達成を言っても、評価となりにくいのではないかと考える。例えば、11番・集会所の整備など、毎年3件ずつが目標なのか、27年度に達成したからもう終わりなのか、こういうものについて評価をどう考えているか。</p>
中島委員長	<p>計画書には3年ごとの目標が書かれている。今の質問は、達成したら終わりなのかということのようであるが、数字は人が関係していくので、動くもの。今年達成していても、来年何らかの要因で達成出来ないものも出てくる。それをこの場において増減の要因など探っていくのも大切。</p>
小室委員	<p>それはわかるが、積み上げて達成するものと、年度で数字が変わるものでも一度達成したら完了として扱うのか。サポーターの育成は年度の積み上げとなる目標なので、27年度で未達成でも問題ないと思う。</p>
中島委員長	<p>達成とあると、終わったように感じてしまうということのようだが、事務局としてはいかがか。</p>
佐藤副主幹	<p>ご指摘のとおり、右肩上がりを目指す指標もあれば、先述のコミュニティ施設の整備のように毎年の目標を指標としているものもあり、進捗を図るのに性質の違う指標も含まれているのは確か。右肩上がりに積み上げていって地域福祉の充実を図っていくものが多いと考えるが、目標達成に向けて伸びが見込めないものなどについて、この委員会で対策を検討していきたいと考えている。</p>
中島委員長	<p>例えば22番の生活困窮者自立促進支援事業は29年目標50人なのに27年度実績が333人。26年度にモデル事業として実施していた時点ではそれほど数字が高くなかった。しかし、法施行され、メディア等に取り上げられたことで、周知が進んで伸びたもの。当初の目標よりもはるかに高くなっているため、こういうものは29年度以降目標値を変えていかなければならないものかもしれない。</p> <p>下がっていて気になるのは、高齢者の見守り相談事業の利用世帯数について。県内では一人暮らし高齢者数が急激に伸びているにもかかわらず見守り相談員事業(利用者数)が下がっている。この事業そのものが、一人暮らし高齢者のニーズに合っていないのか、担い手がいないのかなど、どういう課題があるのか、高齢者支援課が所管だが、施設入所や志望があっても高齢者は増えているので、「見守り」を大事にしている地域福祉の観点からも、考えていく必要がある。</p> <p>また、ファミリーサポート事業についても、所沢では共働きの世帯がどんどん増えているにもかかわらず、利用実績が減っている。おそらく担い手不足ではないか。利用者</p>

	<p>が伸びているのに安定的にサービスを提供できる体制が整っていないということで良いのか。</p> <p>これらのように住民参加で推進していく取り組みについては「担い手不足」という1つの大きな課題が見えてくる。こういう部分は、やはり我々がしっかり進捗を見ていかないとならない。事務局からはあのよう説明があったが、皆さんからの視点でもっと別の要因があるなど伺いたい。</p>
坂口委員	<p>本日の資料について、一覧にしてもわかりやすかった。</p> <p>高齢者見守り相談員についてだが、確かに指標に対して数字は減っている。しかし、小原委員の三ヶ島地区のように、地域での見守りネットワークという事業を始めていて、自治会としても力を入れている。三ヶ島は6千人の高齢者に対し、見守り相談員が2人。指標の数だけをみると、確かに減ってはいるが、相談員だけの力では地域の高齢者の見守りはできない。洗濯物が干してあるかの確認で、近所の方がちょっとした見守りが出来たり、三ヶ島第1地区では社協の力も借りて地域の見守り体制が整いつつある。</p>
中島委員長	<p>地域での見守り活動が活性化していて、そういった活動がある程度ニーズを吸収しているということか。単に見守り相談員の利用数だけでなく、もっと総合的に見ていかないといけない。民生委員である小原委員のご意見はいかがか。</p>
小原委員	<p>6月に要援護高齢者調査をした際、元気な高齢者が多いという印象をうけた。</p> <p>高齢者の方に対しての食事会を開催しているが、各所で開催される食事会を回っている方も多く、外に出られる高齢者が多い。三ヶ島9区自治会では「支え合いネット」があり、高齢者の見守りに力を入れている。高齢者支援課からは、見守り相談員の希望者を募っているという説明があったが、地域で投げかけても希望する人がいない。</p>
中島委員長	<p>元気な高齢者が多いし、高齢者同士での活動が盛んになっているという良い面が出ているということだと思う。社協としては今の(二人の)話で概ねよろしいか。</p>
岡村淳委員	<p>社協としても拾いきれていないような細かい取り組み、隣近所レベルでの取り組みが地域で生まれている。もっと拾い上げて見える形にしていきたいと思う。地域福祉サポーターのように、自ら活動に参加されている方が多いようである。</p>
中島委員長	<p>元気な高齢者が増え、所沢市においては地域での活動が活発になっており、見守り相談員のニーズが減って数字が下がっているのであれば良いことだと思う。一方で本当に支援が必要な方に支援が行き届いていないならば問題で、そこで相談員の数が少ないのであれば、いろいろな活動と合わせて推進していきたいと思う。</p> <p>また、ファミリーサポートの事業についても気になる。様々な放課後支援が民間を含めてあるところだが、保護者の立場(P T Aの立場)から津本委員は意見があるか。</p>

津本委員	<p>つい先日、知人が2人目の妊娠中に入院となり、一人目を見てくれる人を探していると相談を受けた。自分も子どもが二人いるが、仕事をしていないためにファミサポ事業を知らないで過ごしてきたが、その相談を受けたことで市HPを見て、初めて知った。</p> <p>知人はおそらく登録を済ませた頃だと思う。子どもがいる自分でもそうであったが、まだあまり知られていないと思う。</p>
中島委員長	<p>国ではいろいろなサービスが知られていないと言われているがその通りだと思う。</p>
高柳委員	<p>地域見守りということで、子どもたちの見守りをやっている。学校の放課後、夏休みの間、各地区の自治会館などにおいて小学4年生以上の子どもたちの宿題を見てあげるという取り組みを行う。既に美原小地区などは、朝のラジオ体操が終わったら元教員などが中心になって、宿題を教える取り組みがある。まちづくり協議会の活動としても子どもたちの見守りをやっている。お母さんとしては、家にいるとゲームばかりしているので、学校帰りに寄って宿題をやってきてほしいようだ。</p> <p>見守り相談員の話が出たが、担い手となる方がなかなかいない。自治会では見守り相談員にまでつなげなくとも、地域でももう少し見守っていこうという話も出ている。</p>
中島委員長	<p>自治会の立場から、いろいろなお話が聞けた。地域では子育て支援の取り組みも出てきたり、見守り相談員の負担を減らしながら、地域での取り組みを行っている</p> <p>普段から共働きだとファミサポのニーズもあるだろうが、どちらかが家にいると何かなければ、必要性はないため、なかなかわからないということもあるようだ。</p> <p>社協の現場で利用者のニーズに対して、援助会員が伸びないという印象。</p>
岡村淳委員	<p>利用者のニーズはたくさんあると思う。援助会員は募集したり養成講座もしているが、マッチングがうまくいかないところもあると思う。支援員が近所すぎてイヤというようなこともある。また、ママさん同士で助け合おうという動きが地域の中では出ているようである。</p>
中島委員長	<p>ファミサポもいくらかの費用がかかる。もっと支援的なというか(ママ同士で助け合うなど)下の部分で支え合うという動きが出てきているようである。</p>
鬼澤委員	<p>ファミサポだが、積極的に事業の啓発をするとあるが、行政回覧で回したらどうか。行政回覧を回す課も限られている。もっと行政協力員を活用し、行政回覧で周知をはかった)したらいかがか。まちセンにはたくさんチラシがある。そういうチラシも行政回覧をして皆の目につくようにしたらよい。</p>
中島委員長	<p>子育て支援の資料は、自分の経験からも子どもがいれば一通りもらえるが、その時に必要性を感じないと、もらっても目に留まらなかったりする。そこが周知の差としても出てくる。</p>

高柳委員	<p>回覧だが、各町内会の扱いはまちまち。各自治会には、大事なものは上にして回すように等をお願いしているが、町内会によっては月に1度しか回さないところもあるようだ。あとは町内会ごとに掲示板などの活用についても今後、自治連でも検討していきたい。</p>
鈴木委員	<p>事業はたくさんあるが、自分が困ったときにどのように情報収集をするのが難しい。回覧で回ってきても、今不要かもしれない。今後、福祉の総合相談窓口が出来るようだが、困ったことがあったらここに行けばいいというようなところが出来たらよい。</p> <p>目標指標についてだが、数字の扱いは難しい。数値が下がったからうまくいっていない、数値が高ければ問題ないとかいうことでもないと思う。</p>
中島委員長	<p>数字に表れないものもある。そういうものを出来るだけ整理できたらよいと思う。</p>
岡村英委員	<p>見守りとは離れるが、資料2の福祉学習の低下の要因が「不明」とある。前の計画のときからも福祉学習はその重要性から力を入れていこうということになっている。要因が不明のままだとその時の先生の考えで、下がっていくこともあり問題だ。例えばヒント集・マニュアルのようなものを作っていきような取り組みもあるかと思う。所管が違おうだろうが、庁内の連絡会議を作られたとも聞いた。横断的な取り組みというか、社協でも地域福祉サポーターも要請している。サポーターの活動の一つにもなるだろうし、そういうつながりも活用してほしい。</p>
中島委員長	<p>東京都の協議会にも参加しているが、心のバリアフリーが大きなテーマ。情報バリアフリーという考えもある。行政としてもその辺りを大事に考えていく必要がある。</p> <p>(今の意見は)この指標が「総合的な学習」に限定していることもあると思う。職場体験で福祉施設へ行けば、総合的な学習では福祉を扱わないなどということもある。「要因不明」ということで事務局の補足はあるか。</p>
佐藤副主幹	<p>学校教育でいえば、人権教育に関するいわゆるガイドラインが示されているし、指導要領でも位置づけがあったと思うが、取り組み方の手法は学校により判断が分かれるところだと思う。教育委員会でも福祉教育の重要性は認識していると思うので、こういう照会等を通してさらに重要性を伝えていきたい。</p>
岡村淳委員	<p>総合的な学習の関連でいえば20校くらいから、ボランティアセンターに問い合わせをいただく。社協としても活動計画の中で、参加型の福祉学習のプログラムを開発したいとあるが、なかなか取りかかれていない。必要性を感じており、提案していきたいと考えている。</p>
中島委員長	<p>所沢には支援学校がある。施設も多く、県内の試金石となって交流をしたり、障害児と普通学級での交流などについても進んでいるか。</p>

小田島委員	<p>それらについては当然やっているという認識、問題があると考えていない。それよりも、指標の件で障害者週間のイベントの参加者数を使っているが、こういう指標で良いか考える。</p> <p>障害者施設との交流については、近隣の小学校複数が施設で体験をしている。そういったこともかなりの件数があるので、こういった数字を指標としてもいいのでは。また障害者週間に何をしているかと調べてみると、施設等の施設展示、コーラス、ダンス等あたかも障害者自身が主体のように見えるが、実際は企画から主体的にイベントに参加しているわけではないと思う。</p>
中島委員長	<p>(指標については)もう少しうまく表現できるよう考えたい、イベントだけで指標とするのではなく、もっとトータルで考えていけたらと思う。</p> <p>それでは、意見も尽きないが、重点施策の取り組みについて、地域福祉の担い手のことなど重要なことが出てくる。11の基本施策について横断的に関わっているものである。今後の取り組み、方向性について事務局から説明をお願いしたい。</p>
佐藤副主幹	<p>～資料3に沿って、説明を行った～</p>
中島委員長	<p>ありがとうございました。ご意見があればお願いしたいが、まず、Aの で庁内会議の設置要綱もできたということだが、何かあればこの会議を開くことが出来る。まだ複合的な問題もあり開催には至っていないが、体制は整っているとのことである。</p>
鬼澤委員	<p>基本施策Bの地域拠点の集会所の整備について。今年から集会所の利用料の9割を市が補助するというのが始まった。そういうものを書いたらいかがか。</p>
高柳委員	<p>補助率も異なったりするし、集会所の形態により一律の制度ではない。</p>
鬼澤委員	<p>自治会が集会施設を持っているところにも補助があり、持っていないところは借りる場合に9割補助してくれるというのが今年度から始まっているはず。</p>
中島委員長	<p>補助がもらえれば活動しやすくなるという点で、良い制度は書いたらどうかということか。</p>
鬼澤委員	<p>そのとおり。</p>
神武委員	<p>地区社協について、どのような状況か。まちづくりセンターやまちづくり協議会との絡みもあり、あまり積極的に話が出てこない。まちづくり協議会の中に福祉部会が出来ているようだが、それと地区社協の関係がどのように進んでいくのかが見えない。</p>
中島委員長	<p>質問の趣旨としては、まちづくりセンターと地区社協が一緒になって動いていって機</p>

岡村淳委員	<p>能してほしいというご意見と質問のようだが。</p> <p>今現在、地区社協のあるところは、まちづくり協議会の福祉部会の構成員となっている。我々も、地区社協が地域福祉の活動の具体的活動を担うことで、福祉部会へ情報のやり取りもできるので、一緒に地域福祉を進めたいと考えており、そのように活動をしているところ。</p> <p>(現在は)地区社協が2つあり、それ以外は支部となっているが、これをまず地区社協に変えていって、実質今と同じように活動を展開しながら、まちづくり協議会の中で活動をしていきたいと考えている。</p>
高柳委員	<p>まちづくり協議会は11行政区のうち、9つ出来ている。各協議会の中で社協との関係、地域福祉、まちづくりについて考え方が異なるが、各地区で一番いいと思う方法でやっているのは事実。それぞれのやり方があるので、既存のシステムをそのまま協議会に持ってくることもあるが、そうすると何やっているのか分からないということにもなったりする。社協との関わりの中では、(社協に)サロンなどをやってもらっているところもあるが、今後どのように進めるか、課題となってきている。まちづくり協議会の中でも試行錯誤でやっている。</p>
中島委員長	<p>当市は11の行政区に分かれてまちづくりセンターがある。従来地域福祉の推進は、地区社協、所沢は支部社協ということが多いが、それらが担ってきた。しかし最近の全国的な傾向としては、まちづくり協議会の福祉部門を地区社協が担うという流れで、まちづくり協議会と社協と一緒にやっていくことが増えてきている。所沢もそういった方向を目指してはいるが、高柳委員より各地区で考えも異なり、それが課題であるとの意見があった。地域福祉計画の中でも重要となってくるので、今後も考えていきたい。</p>
神武委員	<p>基本施策8でも「地区社協の設置」を目標指標にもしている。そのあたり修正余地もあるのではないか。</p>
中島委員長	<p>今後見直しのところでも議論していくことになると思う。進行が少し遅れている。重点施策はこの辺にして、今後の進め方について議論していけたらと思う。議題2の今後の進め方について事務局から説明をお願いしたい。</p>
佐藤副主幹	<p>～資料4に基づき、事務局より説明～</p>
中島委員長	<p>この委員会の難しいところは、策定に加えて進捗管理も行うこと、そして委員任期が計画年度とずれてくるというところ。全ての委員が継続できればいいが交代もあるので、それを考えると、来年度6月の改選までに少し整理する必要がある。次期計画にむけた提言書等のことも考えると、29年度がそういった取りまとめ時期になってくるとのこと。例年と違い、見直しについての時は委員会だけで考えて行くのが難しいので、提言をまとめるとなると部会を立ち上げる必要もあると思う。何か意見はあるか。</p>

鬼澤委員	29年の2月の会議は未来館でできないのか。
佐藤副主幹	お披露目も含めて、未来館を考えている。
中島委員長	<p>未来館が出来ると、人の流れも変わるし、社協や福祉総務課の引っ越しもあるので、いろいろと大きく変わってくるだろう。</p> <p>1つの案としては、29年の5月までに2年間の進捗をまとめて、次期の委員へ引き継いでいく。次の委員はそれを受け継ぎ議論を進め、提言書へつなげていくとのことでよいか。</p>
神武委員	策定の際にも有志で集まって作業部会を行ったので、次回までの間に1度くらい部会を開いても良いかと思う。
佐藤副主幹	29年度に前半が終了するが、その時に後半に向けての提言が必要という話をしたところだが、その提言をするために部会が必要ということでよいか。今年度に開催ということではないか。
神武委員	(うなずき)
中島委員長	すぐに作業部会を立ち上げるということではなくて、この委員会で議論していくということによいか。
神武委員	29年度の第1回は今の委員で、第2回以降が新委員ということで間違いないか。
佐藤副主幹	その通り、29年度の第1回がこのメンバーで、第2回以降が新たなメンバーとなる。
神武委員	現委員から29年度改選の新委員へ引き継ぐために、見直しや振り返り等何かまとめるような提言が出来れば良いと考えている。
中島委員長	もし、次期委員へ今までの取り組みをまとめる時に時間が必要であれば、有志で集まるということも考える。ある程度形になったものを引き継げないと、次の委員も困るし、建設的なものを渡せるようにしたい。前回第1次の計画の際は、任期の関係できちんとした提言を渡せたが、今回は任期がまたいでいる。いま我々の役割としては、次期の委員に向けて進捗状況や課題をまとめていく。それを来年の新委員に引き継ぎ、それを見て新委員が進めていくことになる。それほど大幅に委員の入れ替えはないかと思うが、どうなるかわからない。29年度以降は部会を設けて丁寧に議論をしていくということで、イメージとしてはよろしいか。事務局としてもそういう方向で問題ないか。
佐藤副主幹	それで良い。

中島委員長	<p>それでは議題3・その他として事務局から何かあるか。</p>
佐藤副主幹	<p>今年度の第2回は11月となっているが、事業の関係で多少のずれもあるかと思う。詳細が決まれば早めにお知らせする。</p>
中島委員長	<p>チラシが2枚配布されている。せっかくなので(社協より)説明してほしい。</p>
岡村淳委員	<p>1つめの施設ボランティアコーディネーター講座について。8月に夏のボランティア体験を実施する予定。お子さんから高齢者までに参加していただき、43のメニューでいろいろな施設で受け入れをしてもらう予定である。1~数日間のボランティアをそれきりにしないよう、お互いにその後につながるように、ボランティア受け入れのための基本ということでコーディネーターを養成する。ボランティアグループなどたくさんの方に受けていただきたい。</p> <p>もう1つのチラシも夏休みバージョンの内容。生活困窮者の自立支援とも関連してくる取り組み。並木地区限定となるが、最近3か所よろず相談所を開設し、CSWが地域の中で拾い上げてきたニーズにより、この取り組みを始めるところ。夏休み中、(児童館の)生活クラブの会員でない子供はお昼の時間児童館から出て、家に帰らなくてはならない。家に帰らずにお昼を食べない子もいると聞いた。それではということで、この2箇所がお昼くらいなら夏休み期間受け入れ可能とのことで、子供の居場所づくりの取り組みをすることになった。お昼を持ってきてもらうのだが、その中で本当にお昼を持ってこられない子供がいたら、今後の支援にもつなげていけると考えている。試行的な部分もあるが、いろいろな方が出入りすることで、地域の広がりにもつながっていくと考えている。</p>
中島委員長	<p>今、CSWの話が出たが、全地区配置をしたとのことで、そのことについても聞かせてほしい。</p>
岡村淳委員	<p>現在、全地区に(CSWを)配置している。やはり地域の中に出向いていかないと顔も分からないしニーズも拾えないと実感している。よろず相談所などは三ヶ島なら狭山ヶ丘コミセンで行ったり、新所沢はグリーンポケットさんでも開催していただいたり、少しずつ身近なところで相談会をしており、その中でニーズを拾い、つながりを作っていくと考えている。</p> <p>所沢地区でも拠点を作っており、Aさん、Bさんそれぞれへの「個の支援」だったところを、居場所が出来たことで利用者通りのつながりも出てくるので、居場所を通じての支援も今取り組んでいるところである。</p>
中島委員長	<p>全地区配置は県内最初の取り組みかもしれない。ありがとうございました。</p> <p>それでは、全ての議題が終わりましたので、事務局へお返ししたい。また、事務局の顔ぶれもかわっているようなので、ご紹介いただきたい。</p>

斎藤主幹

～斎藤主幹により、新体制の紹介～

4.閉 会

閉会を宣言した。